

第 23 回 発電用設備規格委員会 材料専門委員会 議事録

1. 日 時: 2014 年 5 月 30 日(金) 13 時 30 分～17 時 30 分

2. 場 所: 日本機械学会 第 1 会議室

3. 出席者: 委員総数 20 名中、出席者 16 名(代理 2 名)、欠席者 4 名

高橋(電中研)、木村(NIMS)、山田(中電)、浅山(JAEA)、木原(ベストマテリア)、澤田(NIMS)、榎木(日鉄住金テクノロジ)、田中(日本製鋼所)、藤森(日立 GE)、南(NKK シームレス鋼管)、朝田(三菱重工)、安田(原安進)、伊藤(IHI)、井手(東電)

代理人: 森(伊勢田(新日鐵住金))、高橋(中城(東芝))

欠席者: 増山(九工大)、三枝(電中研)、齋藤(三菱重工)、村上(パブ日立)

オブザーバー: 船田(NRA)

事務局: 小沢

4. 配布資料

資料材 23-1	第 22 回材料専門委員会議事録(案)
資料材 23-2-1	材料専門委員会委員名簿
資料材 23-2-2	材料専門委員会委員出席状況等
資料材 23-2-3	材料専門委員会新材料規格化分科会名簿(案)
資料材 23-2-4	材料専門委員会材料規格統合化分科会名簿(案)
資料材 23-3	第 68 回発電用設備規格委員会議事録(案)
資料材 23-4	専門委員会運営規約改訂提案
資料材 23-5	未公開データ取扱い要領(案) [新材料規格化分科会]
資料材 23-6	「火 STPA24J1 系鋼と火 SCPH91 鋼の許容値等の見直し結果」のレビューについて
資料材 23-7-1	「材料事象の解説」規格委員会 再投票意見と回答案
資料材 23-7-2	「材料事象の解説」規格委員会再投票意見対応反映版
資料材 23-8-1	材料規格統合化分科会の活動計画について [材料規格統合化分科会]
資料材 23-8-2	材料専門委員会分科会役割分担(提案) [材料専門委員会幹事会]
資料材 23-9	発電用火力設備規格における材料規格について [木村副委員長]
資料材 23-10	材料専門委員会 課題対応一覧(Tracking List)

5. 議事内容

(1) 開会

委員会開始時、委員総数 20 名中、出席 14 名であった。出席者は委員総数の 2/3 以上(14 名以上)であり、本委員会は成立することを確認し、高橋委員長が委員会開催を宣言した。

出席者が自己紹介を行った。

(2) 議事次第確認

議事次第(案)と配布資料を確認した。山田幹事の都合により資料番号 23-7 シリーズの審議を最初に行うこととなった。

(3) 議事録(案)の確認 【材 23-1】

第 22 回材料専門委員会の議事録(案)の確認を行い、議事録案は承認された。

(4) 委員委嘱関係 【材 23-2-1、23-2-3】

安田委員の再任を規格委員会に提案することが了承された。[賛成 14, 反対 0, 保留 0, 不投票 0]

新材料規格化分科会名簿案【材 23-2-3】の No.11 に森 康範氏(新日鐵住金鋼管技術部)、No.12 に西井 俊明氏(電源開発技術開発部)を追加した名簿案が承認された。[賛成 14, 反対 0, 保留 0, 不投票 0]

(5) 規格委員会報告 【材 23-3】

第 68 回発電用設備規格委員会議事録(案)の材料専門委員会関連部分が報告された。

6. 審議事項

(1) 「材料事象」(RQ09-C2-002)の規格委員会再書面投票結果への対応について【材 23-7-1,2】

審議の結果、材 23-7-1(再投票意見対応案)を以下のとおり修正し、合わせて材 23-7-2(材料事象の解説 再投票意見対応反映版)を修正することで次回規格委員会に編集上の修正で提案することが了承された[賛成 16, 反対 0, 保留 0, 不投票 0]。なお、修正した資料を山田幹事が事務局経由で各委員に配信し、内容の確認を受けることとなった。

- ① P.1 の森下委員保留意見 1. の前半の対応案は P.29 の森下委員参考意見の対応案と置き換え、参考意見対応の方は保留意見対応案の参照とする。
- ② P.2 の森下委員保留意見 6. の対応案は、基本的には「腐食環境」は「環境」とし、「腐食疲労」は「環境疲労」とする。
- ③ P.16 の 2 つの追加参考文献の二つ目のスペルを修正する。
- ④ P.19 の宮口幹事の保留意見 1)に対しては図を示して有意な差はないことの説明とする。
- ⑤ P.28 の 28.については「540℃を超える」の記載を「設計温度を大幅に超える」とする。
- ⑥ P.26:「システムに漏えいが生じることはおそらくシステムの損失を意味するであろう。」の文章は削除する。
- ⑦ P.35 の 13)の対応案は P.36 の 14)の対応案と同じとする。
- ⑧ P.38 の 21)の対応案は誤記を修正する。
- ⑨ P.39 の 24)の対応案は原文から「フェライト系、」を削除するのみの対応案とする。
- ⑩ P.39 の 26)の対応案は補足情報を入れる。
- ⑪ P.41 の(8):フープ応力は一般的な用語であるため、最初にフープ(周方向)応力と記載し、以後はフープ応力と記載することとする。
- ⑫ P.41 の(12)は森下委員の意見対応案を参照とする。

(2) 専門委員会運営規約の改訂提案について【材 23-4】

規格委員会並びに専門委員会の運営規約の一部に齟齬があることから、現行の専門委員会規約の改訂案について事務局から説明があり、今後書面投票を行うことが了承された。[賛成 15, 反対 0, 保留 0, 不投票 0]

(3) 未公開データの取扱い要領について【材 23-5】

『未公開データ取扱い要領(案)』について、新材料規格化分科会の澤田主査から説明がなされた。今後、当該分科会で扱う材料データに関する管理責任を明確化するものである。これに対し、トレーサビリティの確保や国の技術評価の際の説明責任を確保することも重要であるとの意見もあり、再度分科

会にて審議することとなった。

(4) 火 STPA24J1 系鋼と火 SCPH91 鋼の許容値等の見直し結果のレビューについて【材 23-6】

同じく澤田委員から説明がなされた。火 STPA24J1 鋼に関し、長時間側で酸化影響のない範囲における評価の妥当性についての現状判断であるが、再度分科会にて審議の上、次回材料専門委員会において再度説明することとなった。

(5) 分科会の役割分担について【材 23-8-1,2】

『材料規格統合化分科会の活動計画』について、井手副主査から説明がなされた。また、『材料専門委員会分科会役割分担(提案)』について、高橋委員長から説明がなされた。この中で、火力側と原子力側にて掲載されている『新材料採用ガイドライン』の担当分科会について議論となり、今後専門委員会にて検討していくこととなった。

(6) 発電用火力設備規格における材料規格について【材 23-9】

『発電用火力設備規格における材料規格について』に基づき、木村副主査より火力の材料規格に対する国の技術評価の状況等が報告された。設計係数は一部3.5が認められる方向とのこと。

7. 次回開催予定

日 時:2014 年 8 月 26 日(火) 13:30-17:00 (予定)

場 所:日本機械学会第 1 会議室

以 上